

2023年度

# 事業計画書

学校法人 大垣総合学園

# 【目次】

## 1. 法人の概要

■学校法人 大垣総合学園	-----	P 1
--------------	-------	-----

## 2. 設置校の事業計画及び収支予算書

■岐阜協立大学	-----	P 2
---------	-------	-----

■大垣女子短期大学	-----	P 1 4
-----------	-------	-------

# 1. 法人の概要

## 学校法人 大垣総合学園

学校法人岐阜経済大学と学校法人大垣女子短期大学は、2016年10月27日に法人合併認可申請手続きを行い、2017年1月11日付けで文部科学大臣から認可を受けました。

2017年4月1日から、岐阜経済大学（2019年4月1日から岐阜協立大学）と大垣女子短期大学を設置する「学校法人大垣総合学園」がスタートしました。

新法人設立の目的は、私立学校を取り巻く環境が厳しくなる中、法人経営の基盤の強化、安定化とともに、設置する岐阜協立大学と大垣女子短期大学が互いに異なった教育リソースを活かすことにより、地域における「知の拠点」として、教育、文化、地域振興、スポーツ、福祉など、様々な分野において地域貢献の可能性を広げることにあります。

常に地域での存在感を示すとともに、岐阜県西濃地域における高等教育機関等が集う学園都市（西濃学園都市）の実現に近づけます。

## 法人の基本理念

『人を育て、地域を創り、未来を拓く』

人を育て：実学を重視し、社会で貢献できる人材を育てる

地域を創り：地域と共生し、知の拠点として、地域創りに貢献する

未来を拓く：不易流行、実行力で輝く未来を拓く

## 法人のスローガン

『Value UP!!』

～あしたのために“今”やろう～

## ■岐阜協立大学

大学院 経営学研究科 経営学専攻

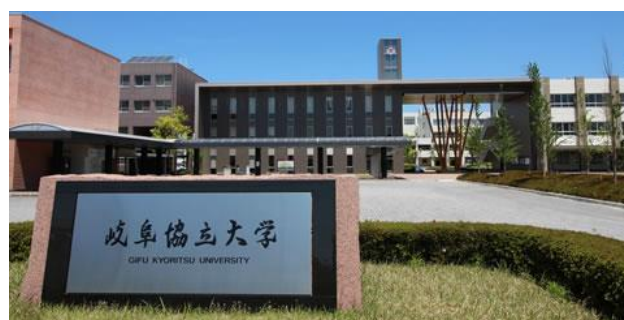
大学 経済学部 経済学科

公共政策学科

経営学部 情報メディア学科

スポーツ経営学科

看護学部 看護学科



## ■大垣女子短期大学

幼児教育学科

デザイン美術学科

音楽総合学科

歯科衛生学科



## 2. 設置校の事業計画及び収支予算書

岐阜協立大学

学長 竹内 治彦

少子化の本格的な進展がいよいよ18歳人口に及んできていることや、地方創生のため大都市部に立地する大学の入学定員を厳格に管理する施策が緩和されてきていることから、地方大学では学生の確保が非常に厳しい状況になっています。

こうしたことから、2023年度予算は緊縮度の高いものとなっています。額面としては、国債の満期償還と減価償却引当特定資産繰入支出により大きく見えますが、実質的には、支出は1億9,000万円以上減額させています。そうしたなかでも、最低限度の営繕活動は行いつつ、主にソフト事業に力を注ぎ、学生の満足度を高め、地域の皆様から支持される大学を目指します。

力を入れようとしていることとしては、IR活動の充実があり、大学の活動や学生の皆さんの頑張りを見える化することに努めます。すでに1年次からアセスメントテストを実施していますが、テスト結果の利用を工夫し、より教育に活かします。単に成績を良くするだけでなく、系統履修を進め、学んだことにより「何ができるようになったのか」を明確にしていきます。成果の可視化という点では、国家試験の合格状況や資格取得、就職状況について、より力を入れて高いレベルで達成できるよう努力していきたいと考えます。

2023年度には新型コロナウイルス感染症も5類となり、社会活動、教育活動も平時に戻ることが期待されます。すでに2022年度末には海外留学を実施しましたが、今後、こうした活動も活発になっていくことも想定しています。

## 2023 年度事業計画の概要

### 1. 教育改革

系統履修をより一層進め、何を学んだか、何ができるようになったのかといった学びの成果の実感を高める（＝学修成果の可視化を進める）。

#### 1) 全学共通

- ① アセスメントテストの受検率向上  
全学部、全学年でのテスト実施と受検後のフォローを行う。
- ② 学生ポートフォリオの活用率向上  
演習教員等の面談による学生ポートフォリオの活用する。
- ③ 授業評価アンケートの回答率向上  
授業評価アンケートの結果の学生へフィードバックする。
- ④ ティーチングポートフォリオの作成率向上  
ティーチングポートフォリオを学内公開する。
- ⑤ I Rを活用した大学の教育の改善提案の件数  
教職員向けの I R研修会を開催する。I R委員会において、各種調査の結果を分析し、改善策の案も踏まえて協議会に報告し、各種委員会での対策案の構築を促す。
- ⑥ 2027 年度の認証評価の認定  
自己点検評価活動を推進する。

#### 2) 経済学部

- ① 課題解決型授業の開講率  
課題解決型授業の実践。
- ② 課題探求型テーマ・手法による卒業論文の割合  
課題探索型演習の実践。
- ③ 社会人・職業人養成教育遂行度指数  
社会人・職業人養成教育の充実。
- ④ 地域社会と連動した教育外学修プログラム充実度指数  
地域社会と連動した教室外学修プログラムの充実。

#### 3) 経営学部

- ① 公務員採用試験合格者（新卒）  
学内外の教育リソースの活用の強化。
- ② 教員免許取得者数  
特色教育の強化。

#### 4) 看護学部

- ① 看護師国家試験合格率（新卒）

全科目の能動的学修の導入と深化・充実並びに授業設計の構築、教育活動の充実を図る学事暦及び授業時間割等の再構築。

② 保健師国家試験合格率（新卒）

全科目の能動的学修の導入と深化・充実並びに授業設計の構築、教育活動の充実を図る学事暦及び授業時間割等の再構築。

③ ダブルライセンス（看護・保健）合格率（新卒）

全科目の能動的学修の導入と深化・充実並びに授業設計の構築、教育活動の充実を図る学事暦及び授業時間割等の再構築。

④ 近隣高校等への看護学部の認知度の向上対策

高大接続連携事業の強化・見直し。

⑤ 1年次退学率

教育の内部質保証体制の構築及び運用。

5) 大学院経営学研究科

① 税理士試験科目免除者数

教育活動の充実を図る学事暦及び授業時間割等の再構築。

2. 学生支援

学生情報の包括的な集積と分析を進めつつ、学生とのやりとりをデジタル化により推進することで学びのニーズに対応した支援を行う。また、スポーツ局を基盤として、強化指定部の活動はもちろんスポーツに取り組むすべての学生の活動と心身の健康を支援する。さらに、大学広報を充実させ、大学内外に情報発信し、学生の満足度の向上を図る。

① 学生実態・満足度調査による満足度

多様な学生（障害、性、留学生）に対する支援体制の強化。

② 奨学費支出減額を目指しての学費減免対象者数を減らす（2022年度624人）

入試に紐づいた奨学金制度の抜本的な見直し。

③ 公認クラブ・サークル数の増加（2022年度25団体）

公認クラブ・サークル数及び加入者数増加に向けた環境整備。

④ クラブ・サークル加入率（2022年度45.84%）

課外活動における多様な経験を促進するための学生会・学園祭実行委員会組織等の強化及び活動の充実。

⑤ 各部活の東海ブロック以上全国大会等出場部数の増加（2022年度強化部8団体、2025年度以降7団体）

強化指定クラブの支援・見直し・環境整備。

⑥ 学生が立ち上げたプロジェクト数（ユニークプラン）

学部・学科を超えて学生や教職員が活動に参加できるプロジェクトの導入・実施。

⑦ 図書館入館者数（学生のみ）

図書館の利用促進。

⑧ 図書貸出利用数（学生のみ）

図書館の利用促進。

⑨ 就職率

一部上場企業就職者数、岐阜県内企業就職者数、金融等特定業界企業内定者数。

⑩ 国内インターンシップ（2週間未満）参加率【経済学部、経営学部】

インターンシップ制度の充実。

⑪ 国内インターンシップ（2週間以上）参加率【経済学部、経営学部】

インターンシップ制度の充実。

⑫ 学内企業セミナー参加企業数

企業訪問、学内企業セミナーなどによる企業との接点強化。

### 3. 研究活動

従来からの社会科学系の学びを高め、地域の政策立案に貢献できる研究活動を推進する。また、看護学部設置の効果を最大化し、学園全体の研究力を保健衛生健康分野等でも発展させる。

① 外部研究資金の獲得金額（科研費、受託・共同研究）

一定数の継続した科研費（研究代表者）採択件数及び受託研究・共同研究獲得。

② 科研費（研究代表者）の採択件数

競争的資金（科研費等）の申請促進。

③ 受託研究・奨学寄付金件数

国内外に対し研究成果を発信する力の向上。

④ 論文、紀要への投稿、著書の発行件数

助成制度や設備等の充実。

⑤ 国外学術誌への論文投稿数

助成制度や設備等の充実。

⑥ 分野横断型共同研究の取組件数

分野横断型共同研究実施に向けた体制整備。

### 4. 地域貢献

前項の研究による地域貢献を推進すると共に学生の地域活動参画を後押しする。

① 公開講座の開講数（案内時点の数）

大垣市との連携の公開講座の開講とともに、大学独自の公開講座を開講する。様々な広報手段を活用する。

② 岐阜、愛知、三重、滋賀等の自治体の審議会委員の委嘱数

地域連携協定の締結を推進する。本学の専任教員の専門を広く広報する。

③ 学生の地域活動でのプロジェクト件数

活動資金調達のために、外部資金等も活用する。学生の活動を積極的に広報する。

## 5. 高大・大社接続

地域にかかわる研究の蓄積を基盤的な資源として、高大接続、大社接続を推進する。具体的には高等学校等における地域の「探求学習」への参画、ポストコロナ時代におけるインターンシップの新しい形を模索し、地域に有為な人材を育成する。

### ① 入学定員充足率

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ② 入学志願者数（実質、延べ）・倍率

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ③ 岐阜県・愛知県志願者の割合

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ④ 第1志望者の割合

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ⑤ 高校ランク別割合

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ⑥ オープンキャンパス参加者数

各階層（高校生、保護者、高校教諭等）へのアプローチ強化。

### ⑦ 大学偏差値

大学ブランドの構築。

### ⑧ 大学WEBサイトアクセス件数

大学ブランドの構築。

### ⑨ 高大連携講座数

高等学校における講座に参画する。

## 6. 事業継続計画

防災をはじめ、安全安心なキャンパスづくりのため、ハード、ソフトの両面から必要な措置を行う。

### ① 文科省への届出、認可申請による学部、学科の新設、学部学科の再編の件数

既存学部学科や学科が有する課程・コースの統廃合を検討する。新たなコースの設置を検討する。新たな学部学科の構想を検討する。

### ② 事業のデジタル化の件数

デジタル化が可能と思われる業務を洗い出す。デジタル化のための予算を措置する。

### ③ 本学の課題解決に向けたSD活動の件数

SD活動を実施する。

### ④ 施設の修繕計画の履行率

施設の修繕予算の状況に応じて、適切で効果的に予算執行する。北方・西之川キャンパスの事務の在り方を検討する。大学のスクールバスの運行形態を再検討する。

### ⑤ 連携事業の件数（親和会：父母会）



親和会との連携事業を実施する。

⑥ 連携事業の件数（校友会：OB会）

校友会との連携事業を実施する。

⑦ 安全衛生管理 自主点検・計画書における未実施項目の改善率  
衛生委員会による労働安全衛生に係る活動を推進する。

⑧ 事業継続計画の制定

事業継続計画（BCP）を制定する。

⑨ 防火防災訓練の実施

防火・防災訓練を開催する。

⑩ 情報セキュリティに関する研修会の教職員の出席率

情報セキュリティに関する研修会を開催する。

⑪ ハラスメントに関する研修会の教職員の出席率

ハラスメントに関する研修会を開催する。

⑫ ガバナンスコードの遵守状況

ガバナンスコードを遵守する。

⑬ 大学ホームページのトピックスへの掲載件数

マスコミ各社への連絡を徹底する。学内の情報収集力を高める。

⑭ 新聞に掲載された（テレビに取り上げられた）件数

マスコミ各社への連絡を徹底する。学内の情報収集力を高める。

## 2023 年度予算概要

### 1. 資金収支予算総括表

(単位：千円)

科目	NO	2022年度当初予算	2023年度当初予算	増減額 (当初予算－2022年度)
学生生徒等納付金収入	1	1,927,000	1,674,000	△ 253,000
手数料収入	2	24,500	22,480	△ 2,020
寄付金収入	3	6,000	7,800	1,800
補助金収入	4	316,350	306,100	△ 10,250
資産売却収入	5	0	0	0
付随事業・収益事業収入	6	6,800	10,940	4,140
受取利息・配当金収入	7	4,400	4,400	0
雑収入	8	45,850	30,540	△ 15,310
前受金収入	9	299,081	299,081	0
その他の収入	10	172,500	360,600	188,100
資金収入調整勘定	11	△ 385,995	△ 250,900	135,095
合計 (A)	12	2,416,486	2,465,041	48,555
前年度繰越支払資金	13	3,075,105	3,343,097	267,992
収入の部合計	14	5,491,591	5,808,138	316,547
人件費支出	15	1,233,014	1,109,954	△ 123,060
教育研究経費支出	16	797,357	787,059	△ 10,298
管理経費支出	17	191,881	167,204	△ 24,677
施設関係支出	18	22,489	0	△ 22,489
設備関係支出	19	52,239	50,938	△ 1,301
資産運用支出	20	0	210,000	210,000
その他の支出	21	102,324	88,000	△ 14,324
予備費	22	30,000	30,000	0
資金支出調整勘定	23	△ 35,000	△ 40,241	△ 5,241
合計 (B)	24	2,394,304	2,402,914	8,610
翌年度繰越支払資金	25	3,097,287	3,405,224	307,937
支出の部合計	26	5,491,591	5,808,138	316,547
収支差額 (A－B)	27	22,182	62,127	39,945

#### 【資金収支 収入の部予算額】

前年度予算額よりも4,855万円増額の見込みです。これは、「学生生徒納付金収入」が入学者減により大幅に減額している一方で、受託事業の増加や国債の満期償還による「減価償却引当特定資産取崩収入」が増額となるため、全体として増額を見込んでいます。

なお、各科目の増減理由は下記の通りです。

【収入の部 増減理由】 2022年度当初予算額/2023年度当初予算額/増減額  
 <学生生徒納付金収入> (19億2,700万円/16億7,400万円/△2億5,300万円)

学納金納付者数が、前年度よりも大幅に減少することが予測されるため、2億5,300万円の減額を見込んでいます。

下表は、学納金納付見込学生数です。

岐阜協立大学

学部生	2023年度		2022年度		差異	
	経済・経営	看護	経済・経営	看護		
1年次	259名	51名	350名	80名	△ 91名	△ 29名
2年次	286名	56名	308名	76名	△ 22名	△ 20名
3年次	309名	75名	387名	68名	△ 78名	7名
4年次	372名	68名	357名	67名	15名	1名
5年次以上	28名	2名	22名		6名	2名
計	1,254名	252名	1,424名	291名	△ 170名	△ 39名
	1,506名		1,715名		△ 209名	

大学院生	2023年度	2022年度	差異
1年次	2名	5名	△ 3名
2年次	4名	8名	△ 4名
長期履修	0名	0名	0名
計	6名	13名	△ 7名

<手数料収入> (2,450万円/2,248万円/△202万円)

受験者数の減少が予測されるため、202万円の減額を見込んでいます。

<補助金収入> (3億1,635万円/3億610万円/△1,025万円)

入学予定者減少に伴う収容定員充足率悪化により、1,025万円の減額を見込んでいます。

<付随事業・収益事業収入> (680万円/1,094万円/414万円)

「受託事業収入」が増加する予測のため、414万円の増額を見込んでいます。

<雑収入> (4,585万円/3,054万円/△1,531万円)

退職予定者減に伴う「私立大学退職金財団交付金収入」の減額によって、1,531万円の減額を見込んでいます。

**<前受金収入> (2億9,908万円/2億9,908万円/0万円)**

前年度と同様の予測のため、同額で計上しています。下表は、入学予定者数です。

**岐阜協立大学**

	2023年度	2022年度	差異
経済・経営	350名	350名	0名
看護	80名	80名	0名
大学院	5名	5名	0名
計	435名	435名	0名

**<その他の収入> (1億7,250万円/3億6,060万円/1億8,810万円)**

「減価償却引当特定資産取崩収入」において、国債の満期償還による2億円と4～6号館屋上防水・外壁、7号館塗装工事充当資金として6,000万円の増額計上をしています。

**【資金収支 支出の部予算額】**

前年度予算額よりも、861万円の増額計上をしました。ただし、「減価償却引当特定資産繰入支出」を差し引くと、19,139万円の減額計上となります。

単年度大型事業として、4～6号館屋上防水・外壁、7号館塗装工事や学内ネットワーク機器更改等予定していますが、今年度退職者の補充ができず、純粹に人数減となる「人件費支出」の減額、各課室での事業精査による経費削減によって、減額計上をしました。

なお、各科目の増減理由は次の通りです。

**【支出の部 増減理由】 2022年度当初予算額/2023年度当初予算額/増減額**

**<人件費支出> (12億3,301万円/11億995万円/△1億2,306万円)**

前年度において教職員が多数退職し、今年度その補充が完全にできなかったため、純粹に人数減となり、1億2,306万円の減額計上をしました。

**<教育研究経費支出> (7億9,736万円/7億8,706万円/△1,030万円)**

光熱費の高騰により「光熱水費支出」の増額、単年度大型事業において「修繕費支出」、「委託・報酬・手数料支出」の増額がある一方で、「奨学費支出」の見直し、「教員研究費支出」の奨学寄附金等の減額、各課室での事業精査によるその他科目での経費削減により、1,030万円の減額計上をしました。

**<管理経費支出> (1億9,188万円/1億6,720万円/△2,468万円)**

光熱費の高騰により「光熱水費支出」の増額がある一方で、前年度の単年度事業終了に伴う減額（「修繕費支出」、「委託・報酬・手数料支出」）や「旅費交通費支出」、「印刷製本費支出」、「広告費支出」等の事業精査による経費削減により、2,468万円の減額計上をしました。

**<施設関係支出> (2,249万円/0万円/△2,249万円)**

前年度の単年度事業が終了したため、2,249万円の減額計上をしました。

**<設備関係支出> (5,224万円/5,094万円/△130万円)**

単年度大型事業で、学内ネットワーク機器更改やUTM（総合脅威管理アプライアンス）Fortigate 更改等で増額がある一方で、前年度に実施した9号館音響機器やサーバー周辺機器更改等が減額となるため、130万円の減額計上をしました。

**<資産運用支出> (0円/2億1,000万円/2億1,000万円)**

「退職給与引当特定資産繰入支出」1,000万円、「減価償却引当特定資産繰入支出」2億円（有価証券購入予定）を計上しました。

以上の結果、キャッシュフローでは、62,127万円の収入超過の見込みとなり、翌年度繰越支払資金（現・預金）は、34億522万円となる見込みです。

## 2. 事業活動収支予算総括表

(単位：千円)

科目		番号	2022年度当初予算	2023年度当初予算	増減額 (当初予算-2022年度)	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	1	1,927,000	1,674,000	△ 253,000
		手数料	2	24,500	22,480	△ 2,020
		寄付金	3	6,000	7,800	1,800
		経常費等補助金	4	316,350	306,100	△ 10,250
		付随事業収入	5	6,800	10,940	4,140
		雑収入	6	45,850	30,540	△ 15,310
		計	7	2,326,500	2,051,860	△ 274,640
	支出	人件費	8	1,236,158	1,124,693	△ 111,465
		教育研究経費	9	1,082,379	1,061,227	△ 21,152
		管理経費	10	239,037	193,032	△ 46,005
		計	11	2,557,574	2,378,952	△ 178,622
教育活動収支差額		12	△ 231,074	△ 327,092	△ 96,018	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	13	4,400	4,400	0
		その他の教育活動外収入	14	0	0	0
		計	15	4,400	4,400	0
	支出	借入金等利息	16	0	0	0
		その他の教育活動外支出	17	0	0	0
		計	18	0	0	0
教育活動外収支差額		19	4,400	4,400	0	
経常収支差額 ①		20	△ 226,674	△ 322,692	△ 96,018	
特別収支	収入	資産売却差額	21	0	0	0
		その他の特別収入	22	400	500	100
		計	23	400	500	100
	支出	資産処分差額	24	1,501	1,501	0
		その他の特別支出	25	0	0	0
		計	26	1,501	1,501	0
特別収支差額		27	△ 1,101	△ 1,001	100	
[予備費]		28	10,000	10,000	0	
基本金組入前当年度収支差額 ②		29	△ 237,775	△ 333,693	△ 95,918	

### ① 教育活動収支

教育活動収支は、経常的な収支のうち、本業の教育研究諸活動における収支を表しています。

前年度当初予算よりも、収入の2億7,464万円の減額に対して、支出が1億7,862万円の減額となるため、9,602万円の支出超過の見込みです。

### ② 教育活動外収支

教育活動外収支は、経常的な財務活動（資金調達、資金運用）における収支を表しています。

本学は借入金がないため、有価証券等の運用益のみの計上となります。

また、上記①と②の合計（上表「経常収支差額」）は、学校全体の経常収支の状況を表しており、今年度当初予算では、3億2,269万円の支出超過（前年度当初予算額よりも9,602万円の支出超過）の見込みです。

### ③ 特別収支

特別収支は、資産売却や施設設備関係の補助金等の臨時的な収支を表しています。

現物寄付による収入がある一方、教育研究用機器備品の資産処分差額が 150 万円あるため、100 万円の支出超過の見込みです。

以上の結果、全体の収支バランスを表す基本金組入前当年度収支差額は 3 億 3,369 万円の支出超過（前年度当初予算より 9,592 万円の支出超過）の見込みです。

# 大垣女子短期大学

## 第2期中期5か年計画の初年度にあたり

学長 曾根孝仁

新型コロナウイルス感染症は、感染法上の位置付けが5月に「2類相当」から「5類」に変更されることとなりますが、この間に人の流れや生活様式が大きく様変わりしました。

教育環境の変化も同様ですが、このコロナ禍においても本学は、地域に根差した高等教育機関としてその使命を全うするため、本学の教育理念である「豊かな人間性を培い、専門的な知識や技能を身につけて、積極的に地域や社会で貢献できる女性の育成」実現のため、不断の努力を続けています。設置する4学科それぞれが、専門分野で活躍できる職業人育成のため、確実に知識・技能を身につける学びの向上を図り、社会的期待に応えるため、学科ごとの教育的特徴を活かした短期大学を目指し続けています。

教育面では、常に教育内容の検討を行い、特色ある学修科目の配置及びキャリア支援教育の充実を図るとともに、基礎学力や学習習慣などの実態把握が可能となる「基礎力リサーチ」を1年次生に実施し、学習意欲の向上を支援します。施設整備では、引き続き建物各所の照明のLED化などの教育環境改善にも努めてまいります。地域への貢献では、地域との結びつきを一層深めることを目指します。とくに職業実践力育成プログラム等リカレント教育を充実し、キャリアアップを求める受講者を受け入れます。

入学者の確保は喫緊の課題であり、岐阜協立大学と連携しながら、常に学生募集活動の見直しを進めて展開するとともに、定員充足によって国庫補助金の一層の獲得を目指してまいります。

本年度は、第2期中期5か年計画の初年度であり、教育改革、学生支援、研究活動、地域貢献、高大・大社連携、事業継続計画の6本柱で、構成員の英知を結集し、地域に求められる短期大学の運営にまい進してまいります。



## 2023 年度事業計画の概要

### 一. 2023 年度の事業計画

#### 1. 教育改革

【行動目標】(1) 学修者本意の教育の実現及び質保証体制の構築

- 《行動計画》① 3つのポリシー及びアセスメント・プランに基づく教育成果の可視化  
② 成績評価の厳格かつ公正な実施のためのシラバス記載内容の検証と改善  
③ 成績評価基準の平準化などによる単位の実質化  
④ 各授業科目のルーブリック評価表の導入  
⑤ 教学マネジメントに関する要項に基づく教学 IR の整備  
⑥ アクティブラーニング型要素を含む授業科目を 70% 目指す  
⑦ ICT を活用した教育及び授業の展開

【行動目標】(2) 多様な教育体制と社会との連携

- 《行動計画》⑧ 基礎学力・汎用的能力の涵養の強化  
⑨ 外部基礎学力テスト、アセスメントテストの導入  
⑩ 外部（地方自治体、産業界等）からの意見聴取  
⑪ 学科教育課程とコースのスリム化  
⑫ 収容定員に見合った施設規模への転換  
⑬ 複数学科で利用できる共通教室の整備及び共通物品化への追求  
⑭ 大学と短大のキャンパス及び施設設備の融合  
⑮ 大学と短大の教育課程及び特別講座等の融合

#### 2. 学生支援

【行動目標】(1) 多様な学生の成長を促すサポート体制の整備

- 《行動計画》① アカデミック・アドバイザーによる指導及び支援の充実  
② 経済的支援の充実と各種制度の有効活用  
③ 生活相談への支援  
④ 特別な配慮を要する学生への学修及び生活支援  
⑤ 課外活動支援  
⑥ 学生利用施設・設備の充実

【行動目標】(2) キャリア支援の強化

- 《行動計画》⑦ 就職活動に関する支援の充実  
⑧ 特別な配慮を要する学生への支援  
⑨ 卒業者のキャリア（就職・進学等）の状況の把握と教育活動等の改善

#### 3. 研究活動

【行動目標】(1) 研究基盤の充実

- 《行動計画》① 外部資金採択率向上に向けた学内制度及び研修制度等の充実  
② 外部資金募集情報の提供、申請、執行、報告等支援体制の充実

【行動目標】(2) 社会に貢献できる研究の推進

- 《行動計画》③ 教員個人研究及び共同研究の成果の可視化

#### 4. 地域貢献

##### 【行動目標】(1)社会連携活動の強化

- 《行動計画》①地域連携推進に関する目標・計画の策定  
②地元自治体との連携  
③地元各種団体、自治会等社会連携活動の強化  
④学生のボランティア活動に対する取組

##### 【行動目標】(2)保護者・卒業生（同窓生）及び企業等との連携

- 《行動計画》⑤保護者への情報提供網の整備  
⑥卒業者からの評価の実施・分析・結果の公表  
⑦企業等に向けた情報発信の整備

##### 【行動目標】(3)生涯教育・社会人教育の推進

- 《行動計画》⑧社会人特別研修プログラムの策定と実施  
⑨図書館の地域開放の推進  
⑩学修成果発表機会の計画的提供推進

#### 5. 高大・大社連携

##### 【行動目標】(1)学生募集活動の強化

- 《行動計画》①各階層（高校生、保護者、高校教諭等）別アプローチの強化  
②広報媒体の見直し  
③高校生等真の保有リストの増加  
④在学生・教職員による広報活動への支援  
⑤入学試験制度の点検・見直し

##### 【行動目標】(2)大学ブランディング強化

- 《行動計画》⑥メディアへの露出度向上  
⑦出前講座による高大連携の強化及び教員間の交流促進  
⑧高大連携による入学前課題の検討  
⑨リカレント教育導入に向けた環境の整備  
⑩履修証明プログラムの検証・改善

#### 6. 事業継続計画

##### 【行動目標】(1)大学運営体制の最適化

- 《行動計画》①大学運営方針の明確化及び共有化  
②大学運営の方向性の現状分析及び計画策定の継続した議論展開  
③社会のニーズを踏まえた大学運営の規律及びガバナンス体制の強化  
④事務組織及び各種委員会等の合理化・効率化  
⑤業務のデジタル化推進による生産性・合理性の向上  
⑥大学運営全体を対象とした客観的な数値（IR）等に基づく点検評価

## 二. 2023 年度予算概要

### 1. 資金収支予算総括表

(単位：千円)

科目	2023 年度予算額	2022 年度予算額	比較増減額
収入の部			
学生生徒等納付金収入	507,091	573,470	△66,379
手数料収入	7,270	7,550	△280
寄付金収入	8,800	10,100	△1,300
補助金収入	114,100	118,100	△4,000
付随事業・収益事業収入	540	535	5
受取利息・配当金収入	43	160	△117
雑収入	4,700	3,700	1,000
単年度収入の計	642,544	713,615	△71,071
前受金収入	231,980	248,800	△16,820
その他の収入	70,600	65,881	4,719
資金収入調整勘定	△218,735	△251,355	32,620
収入の部小計	726,389	776,941	△50,552
前年度繰越支払資金	942,784	909,231	33,553
収入の部合計	1,669,173	1,686,172	△16,998
支出の部			
人件費支出	401,937	406,829	△4,892
教育研究経費支出	155,853	141,334	14,519
管理経費支出	73,312	85,443	△12,131
施設関係支出	4,546	19,426	△14,880
設備関係支出	1,860	4,740	△2,880
資産運用支出	0	0	0
[予備費]	5,000	5,000	0
単年度支出の部	642,508	662,772	△20,264
その他の支出	93,200	85,000	8,200
資金支出調整勘定	△16,500	△14,700	△1,800
支出の部小計	719,208	733,072	△13,864
翌年度繰越支払資金	949,965	953,100	△3,135
支出の部合計	1,669,173	1,686,172	△16,998
収支差額	7,181	43,869	△36,688

※千円未満切捨てのため合計等金額が一致しない場合があります。

#### 【資金収支 収入の部予算額】

前年度予算額よりも 5,055 万円減額の見込みです。入学予定者数は 2022 年度よりも減少を見込み、2022 年度卒業予定者数よりも入学予定者数が少ないことから、全体の学生数が減少し学生生徒等納付金収入が大幅に減額することが、減額の大きい要因となります。なお、科目の増減理由は下記のとおりです。

#### 【収入の部 増減理由】

(2023 年度当初予算額／前年度比較増減額)

< 学生生徒等納付金収入 >

(5 億 709 万円／△6,637 万円)

学納金納付者数は、2022 年度入学者数よりも大幅減で、前年度卒業生数よりも少ないことから、全体で 52 名減少を予測しています。

右表は、年次別の学納金納付見込学生数です。

	2023 年度	2022 年度	収容定員	
			2023 年度	2022 年度
1 年次	168 名	187 名	200 名	200 名
2 年次	178 名	237 名	200 名	200 名
3 年次	122 名	96 名	100 名	100 名
計	468 名	520 名	500 名	500 名

<手数料収入> (727 万円／△28 万円)

入学試験検定料と履修証明プログラム (BP) 選考料を計上しており、入学検定料収入、試験料収入及び証明手数料収入は減収、在籍料収入は増収を見込みますが、全体では 28 万円の減収を見込んでいます。

<寄付金収入> (880 万円／△130 万円)

みずき会 (保護者会) からの特別寄付は、学生数が前年度比較で減少する見込みであることから、全体では 130 万円の減収を見込んでいます。

<補助金収入> (1 億 1,410 万円／△400 万円)

国庫補助金収入には国の就学支援奨学金も計上していますが、前年度比較では 400 万円の減収としています。また、地方公共団体補助金収入は、前年度と同額を見込んでいます。

<付随事業・収益事業収入> (54 万円／1 万円)

前年度事業からの大幅な増加、変更は見込めませんが、全体で 1 万円の増収を見込んでいます。

<受取利息・配当金収入> (4 万円／△12 万円)

前年度と同様、定期預金での運用としていますが、金利低下に伴い 12 万円の減収を見込んでいます。

<雑収入> (470 万円／100 万円)

退職金財団交付金収入は増収の見込み、施設設備利用料収入、その他の雑収入は前年度と同額を見込みであることから、全体で 100 万円の増収を見込んでいます。

<前受金収入> (2 億 3,198 万円／△1,682 万円)

2024 年度の入学予定者数は、定員数である 200 名を見込んでいますが、2024 年度の学納金納付者数は 2023 年度に比べて減少が見込まれることから、全体としては 1,682 万円の減収を見込んでいます。

在籍者数	2024 年度	2023 年度
幼児教育学科	120 名	137 名
デザイン美術学科	86 名	94 名
音楽総合学科	87 名	83 名
歯科衛生学科	146 名	154 名
計	439 名	468 名

<その他の収入> (7,060 万円／471 万円)

預り金受入収入は、主にみずき会、学友会、同窓会の資金であり、471 万円の増収を見込んでいます。なお、みずき会、学友会、同窓会の預り金は、預り金支払支出としても計上しており、一時的な預り金となります。

## 【資金収支 支出の部予算額】

前年度予算額よりも1,386万円の減額予算です。教育研究経費支出が増額するものの、人件費の抑制に加え、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出の合計額も減額とすることから、全体では減額予算となっています。なお、科目の増減理由は下記のとおりです。

### 【支出の部 増減理由】

(2023年度当初予算額/前年度比較増減額)

＜人件費支出＞ (4億193万円/△489万円)

教員人件費支出では、昇給による基本給の増加及び所定福利費負担の増加により増額を見込んでいます。一方、職員人件費支出では人員が減少することから大きく減額することから、全体で489万円の減額としています。

＜教育研究経費支出＞ (1億5,585万円/1,451万円)

電気料金が高騰していることから光熱水費支出が前年度より1,161万円の増、消耗品費支出が41万円増、修繕費支出が304万円増、国の授業料減免事業増により奨学費支出が100万円増を計上していることもあり、全体で1,451万円の増額としています。

＜管理経費支出＞ (7,331万円/△1,213万円)

教育研究経費支出と同様に、光熱水費支出が増額としていますが、全体で1,213万円の減額としています。

＜施設関係支出＞ (454万円/△1,488万円)

収入減に伴う整備計画の見直しにより、最小限の整備に留めていることから、全体で1,488万円の減額としています。

＜設備関係支出＞ (186万円/△288万円)

施設関係支出と同様、整備計画の見直しにより、全体で288万円の減額としています。

＜その他の支出＞ (9,320万円/820万円)

預り金支払支出は、主にみずき会、学友会、同窓会の資金であり、前年度よりも増額を見込み、火災保険契約の更新時期で前払金支払支出の計上を見込んでいることから、全体で820万円の増額を見込んでいます。

以上の結果、キャッシュフローでは、718万円の収入超過予算となり、次年度の繰越支払資金（現・預金）は、9億4,996万円となる見込みです。

## 2. 事業活動収支予算総括表

### 【事業活動収支の概要】

教育研究活動や財務活動（教育活動外収支）による経常的収支と、資産売却や処分等の臨時的収支に区分することで、それぞれの収支状況が把握でき、学校法人会計の特徴である基本金についても組入れ前と組入れ後の収支状況を表示しています。

科目の多くが資金収支と重複するため、事業活動収支における特記事項のみ記載します。

(単位：千円)

	科目	2023年度予算額	2022年度予算額	比較増減額
教育活動収支	学生生徒等納付金	507,091	573,470	△66,379
	手数料	7,270	7,550	△280
	寄付金	8,800	10,100	△1,300
	経常費等補助金	114,100	118,100	△4,000
	付随事業収入	540	535	5
	雑収入	4,700	3,700	1,000
	教育活動収入計	642,501	713,455	△70,954
	人件費	401,937	406,829	△4,892
	教育研究経費	237,853	241,334	△3,481
	(内、減価償却額)	82,000	100,000	△18,000
	管理経費	89,312	101,443	△12,131
	(内、減価償却費)	16,000	16,000	0
	教育活動支出計	729,102	749,606	△20,504
	教育活動収支差額	△86,601	△36,151	△50,450
支 動 教 外 育 収 活	受取利息・配当金	43	160	△117
	教育活動外収入計	43	160	△117
	教育活動外収支差額	43	160	△117
経常収支差額		△86,558	△35,991	△50,567
特 別 収 支	その他の特別収入	1,150	1,200	△50
	特別収入計	1,150	1,200	△50
	資産処分差額	500	500	0
	特別支出計	500	500	0
	特別収支差額	650	700	△50
[予備費]		5,000	5,000	0
基本金組入前当年度収支差額		△90,908	△40,291	△50,617
基本金組入額合計		△8,000	△15,000	7,000
当年度収支差額		△98,908	△55,291	△43,617
前年度繰越収支差額		△2,910,014	△2,859,001	△51,013
基本金取崩額		0	0	0
翌年度繰越収支差額		△3,008,922	△2,914,292	△94,630

※千円未満切捨てのため合計等金額が一致しない場合があります。

### 【特別収支増減理由】

<その他の特別収入> (115万円／△5万円)

みずき会からの現物寄付を計上しています。

<資産処分差額> (50万円／±0円)

前年度と同額を計上しています。

<基本金組入額> (△800万円／700万円)

基本金対象資産の取得金額を基本金に組入れしています。

以上の結果、本業である教育活動収支は8,660万円の支出超過予算となり、教育活動外収支（受取利息・配当金収入）を含めた経常収支差額においても8,655万円の支出超過予算となります。

また、基本金組入前の全体の収支は、9,090万円の支出超過、基本金800万円を組み入れた結果、当年度の収支差額は9,890万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は30億892万円の累積赤字となる見込みです。